

同志社大学

2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年3月17日提出

所 属	職 名	氏 名
政策学部	教授	山谷清志
研 究 題 目	政策評価の「本質」に関する研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>2015年度は、理論研究はさておき、これまでの山谷が蓄積した評価実務のノウハウを活かす「調査」の要請が多かった。学問研究の社会的貢献は重要であるが、いささか当てが外れ、研究計画が狂った感がある。</p> <p>すなわち、従来の経済産業省、防衛省、内閣府の政策評価以外に、文部科学省からは第二次教育振興計画の見直し作業の依頼が来た。どのような評価方式が良いかアドバイスを求められ、また選択した評価方式の洗練の依頼である。</p> <p>また、外務省からはODA政策の評価をどのようにフィードバックするべきか、その検討を依頼された。さらに、同じ時期、国際協力機構(JICA)は、その事業評価の評価、すなわちメタ評価のあり方についての判断を求められ、この両者のために2ヶ月ほど忙殺された。</p> <p>2015年度はこのように、基礎研究をする余裕があまりなく、むしろ政策評価の応用の部分で研究が進んだ。政策評価は政策学の応用であると考えれば、その「本質」が垣間見えたと言えるかも知れない。</p> <p>なお、こうしたことのため、研究費を使って基礎研究、論文執筆する時間的余裕がなくなったため、研究費の少なからぬ部分は次年度繰越とした。</p>	